

## 自然観察入門-VII

### *Introduction to Nature Observation VII*

岩崎行伸\*

富士山と自然観察記録を通し、その景観と感想を述べる。

憲館・富士山に関しては、せど裏山と日本平から眺めた四季景観の眺望が何時も実に美しい。この景観は天候次第であり、少々の雲がかかっている場合でも、山頂が観察されれば、その場で30分から1時間待機した。

富士山と四季を通して見ると、冬及び春彩は積雪状態、初夏・盛夏・秋彩には積雪が消えた素顔が観察された。

春先や新緑期には年によるが、残雪あって、その様相は日毎に異なる。夏場になると、初夏以後秋の9月中旬頃まで素顔が観察される。年によるが、富士山の初冠雪は10月上旬から中旬に観察されるが、その雪量は下旬から11月下旬頃まで気温の状態により雪が消えた富士の素顔が観察された。12月上旬には、再び積雪が次第に多くなり、山頂に白帽子を被る冬支度が感じられた。近年は暖冬異変現象により、冬場であっても、比較的積雪量は例年より遅れて少ない。

# 特別号外:Field Watching

## 富士山の四季彩景観



A・B・C: 富士山 (日本平/清水)

Photo of Y. Iwasaki

特に、雨上り後の富士山頂は遠くにして実に美しい日本一・世界に誇る雄姿が観察された。

富士山の天候に関して、山頂付近に傘雲がかかる時には1日から3日後に付近の天候が急変し、姿を表わさない。

小生は未だ富士山には登山の経験がない。若い頃、何時か登山できると思い、アルピニストになって、先に八ヶ岳（赤岳）や北南アルプスの夏の（甲斐駒岳・前穂岳・槍ヶ岳・白馬）縦走経験をした。

樹木の四季彩としては、静岡県美術館前通りや静岡県大学前通りの樹木・樺の四季彩の色付き、四季折々と変化して景観・様相が自然界の美術的变化を呈していた。樺の新緑期には青葉が映えてくる。初夏から盛夏には葉々が黄一色となる。気温が一段と低下する中秋・晩秋期には赤茶ケ色に変色した様相は見ものである。このような光景は何時までも続かない。気温が10度級になると、落ち葉が風に舞う景観が観察されて、やがて、枯れ枝の様相がみられた。

また、美術館の公園駐車場には、染井吉野桜がある。この桜は、年により気温状態によるが、例年3月中旬から下旬には日本の桜の蕾・開花を見、4月上旬から中旬には全面満開して花見の季節となる。この頃には野鳥（メジロ・ヒヨドリ・鶯等が蕾を啄ばむ光景を経験できて、自然界の送り物（写真）として、記憶と記録に留めることができた。

# 特別号外:Field Watching

## 樹木・四季彩景観



D : 桜開花 (3/25)



G : 榉・夏彩 (7/25)



E : 桜満開(4/5)



H : 榉・秋彩 (11/20)



F : 桜枯木 (11/25)



I : 榉・冬彩 (1/6)

Photo of Y. Iwasaki

D・E・F : 染井吉野 (馬 走/清水)

G・H・I : 静岡県美術館通り/静岡駿河)

晩秋（11月上旬）に、染井吉野桜は気温低下により葉々が色付く  
気始めるが、風の影響で枯れ葉が舞う景観をしばし観察できた。1

2月に入ると葉々が落ちて枯れ木となる。翌年2月頃、気温の上昇から蕾は一段と大きくなり、3月中旬（静岡）には開花した。

## 2) 参考資料

- 1) 淡水魚：ガイドブック（2003）、永岡書店、桜井淳史・渡辺昌和著
- 2) 2018年度：活動報告、東海大学海洋学部水棲環境研究会発行
- 3) 自然観察入門-0-VI（2020）、東海大海洋OB会・海鳴52号、岩崎行伸著

## 3) 挿入写真

- 1) 清流の生きものたち-I、Photo by Y. IWASAKI
- 2) 清流の生きものたち-II、Photo by Y. IWASAKI
- 3) 清流と静岡市内の生きものたち（水棲種）

---

\*会員：自然観察塾（塾長）、水棲&環境研究